本部活動報告

会長

加藤 道夫 Michio KATO

学会本部においては、経常的活動と国際会議の共催など、必要に応じて臨機に対応する活動が行われている。

1. 経常的活動

1.1 会誌の発行

会誌『図学研究』は、1992年度から年4回の発行を行っている。この間、通巻100号を向かえ、故渕上季代絵編集長の下、100号記念号が編集された。また、1999年の通巻83号から装丁も従来のB5判からA4判に衣替えし、号の標記も巻、号標記とした。その装丁デザインは、当時の編集委員であった故丸山剛編集委員により行われた。お二人の逝去会員には、改めて感謝と追悼の意を表したい。

さらに、理事会の議に従い、2005年以降、隔年で研究論文賞、教育論文賞を過去2年にわたる『図学研究』掲載の研究論文の中から選定することとした。第1回の表彰（教育論文賞）は、堤江美子氏が選定された。

1.2 年度大会の開催

原則として5月の第2週末に、総会と学術講演会などを含む年度大会を行った。開催場所は、原則として、首都圏と各支部の交互持ち回りとするが、記念大会の開催など特殊な事情がある場合には、臨機に調整する。大会の開催にあたっては、開催校ならびに、支部、開催校周辺の会員諸氏の協力が不可欠である。この場を借りて感謝の意を表したい。

また、2005年の大会以降、大会での優れた研究発表に対して研究発表賞、奨励賞を授与することとした。

過去10年間の開催場所は以下の通りである。

1997年5月 東京大学駒場キャンパス
1998年5月 北海道大学
1999年5月 武蔵工業大学
2000年5月 いわき明星大学
2001年5月 青山学院大学青山キャンパス
2002年5月 中部大学
2003年5月 女子美術大学

2004年5月 神戸大学

2005年5月 埼玉大学

2006年5月 九州産業大学

1.3 理事会の開催

原則として月1回開催している。理事会においては、総会の議決した事項の執行に関することや、総会に付議すべき事項の検討を行うほか、会務の執行に関する事項を扱う。具体的には、正会員、学生会員、賛助会員の入退会管理、日本学術会議、設計工学会、その他、国の内外を含む各種学術団体との協力・連携、図学ライブラリ寄贈図書の確認・管理、財務状況の把握、会誌編集状況、年次大会、本部例会、その他本部が主催・共催する各種事業の計画、準備、実施、事後評価などを行っている。

1.4 例会・見学会の開催

本部例会は、通常11月下旬から12月上旬の週末に研究発表を中心に行われ、講演会や見学会などが同時に開催されることもある。

2001年までは、本部例会ということで、支部以外の大学すなわち、首都圏の大学で行われてきた。しかし、2001年の本部例会が、首都圏の参加者の多くですら、宿泊参加となったことから翌年以降、首都圏の大学での開催に拘らず、宿泊を含めて会員の集まりやすい場所で開催することとし、2002年から2004年は宿泊施設を借りて開催した。また、支部会員の参加も多いとの理由から、開催地域を拡大し、2005年、2006年は首都圏以外の大学で開催された。

また、2004年以降、大会同様本部例会学術講演論文集を印刷することとした。

過去10年間の本部例会開催場所は以下の通りである。

1997年12月 日本大学生産工学部
1998年11月 埼玉大学工学部
1999年11月 東京工科大学
2000年11月 筑波技術短期大学

2001年12月 神奈川工科大学
2002年11月 静雲荘
2003年11月 熱海ニューフジヤホテル
2004年12月 伊東パウエル
2005年12月 摂南大学
2006年12月 静岡文化芸術大学

時の学会長吉田勝行氏を中心に、開催支部の会員の尽力に負うところが大きい。この場を借りて感謝の意を表したい。なお、会議の詳細は日中国学教育研究国際会議報告を参照されたい。

次の第8回会議は、本年8月に中華人民共和国の蘇州で開催される予定である。

1.5 役員選挙

会長、副会長、監事および理事の役員選挙は、本部ならびに各支部からの候補者推薦を経て、西暦奇数年の春に会員による投票を行い、総会で選任する。

1.6 学会賞の選考・授与

日本図学会賞候補者の推薦は、予め総会で選出されている委員からなる学会賞選考委員会で随時受け付けており、候補者は同委員会で審議の上、理事会に諮られる。理事会において適当と認められた候補者は学会賞選考委員会から総会に報告され、その承認を経て学会賞が授与される。

1.7 会員名簿

個人情報保護法に則り、これまで、2年ごとに図学研究の巻末に掲載してきた会員名簿の掲載は、2003年を最後にとりやめ、会員情報は学会管理とした。

1.8 国際図学会との連携

1990年発足の国際図学会（International Society for Geometry and Graphics）とは、準備段階から図学国際会議参加者を中心にその設立準備段階から積極的に連携を進めてきている。1996年に本会から初めて鈴木賢次郎氏が会長に推薦され、その後、数年を経て2005年1月より現在堤江美子氏が会長を務めている。

2. 国際会議

2.1 図学国際会議

国際図学会が主催する図学国際会議（International Conference on Geometry and Graphics）が、西暦偶数年度に開催され、多くの本会員が参加・発表を行っている。本学会はこの会議への参加を推進し、参加団派遣のみならず、会議の共催などを積極的に行っている。会議の詳細は国際会議報告を参照されたい。

2.2 日中国学教育研究国際会議

1993年以降、西暦奇数年に日本図学会と中国工程図学会との共同主催で開催されている。

特筆すべきは、2001年の第5回日中国学教育研究国際会議の開催であろう。本会議は、日本で始めて開催された同会議である。同会議の組織、運営に当たっては、当

かとう みちお
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部